

\*\*\*\*\*

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.57 です。

\*\*\*\*\*

===== 目次 =====

【お知らせ】

- 【1】会員動向(2003年3月26日現在数 651名, 専門医 446名)
- 【2】第13回日本臨床検査専門医会春季大会について(富永真琴大会長)
- 【3】平成15年度 第二回 常任・全国幹事会 開催のお知らせ
- 【4】公益信託臨床病理学研究振興基金名称変更のお知らせ

【最新トピックス】

- 【1】危険な運転士
- 【2】国際赤十字(ICRC)による「行方不明者」の国際会議
- 【MTJ(The Medical & Test Journal)3月1日号から】
- 【MTJ(The Medical & Test Journal)3月11日号から】
- 【MTJ(The Medical & Test Journal)3月21日号から】

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-1】

会員動向(2003年3月26日現在数 651名, 専門医 446名)

新入会員

- 上原 由紀 先生 日本大学医学部臨床検査医学
- 福留 寿生 先生 厚生連松坂中央病院・臨床病理科
- 福本 誠二 先生 東京大学医学部付属病院検査部
- 今井 裕 先生 三重大学医学部病理学第2講座
- 本田 由美 先生 熊本大学医学部付属病院検査部
- 猛尾 弘照 先生 自衛隊中央病院研究検査部・病理課
- 高木 潤子 先生 愛知医科大学臨床検査医学
- 小谷 和彦 先生 鳥取大学医学部臨床検査医学

退会

無し

所属変更(新所属・他)

- 斎藤 啓 先生 浦安・市川市民病院 臨床病理科
- 賀来 雅弘 先生 すぎなみ大塚クリニック
- 伊藤 章 先生 横浜市立大学医学部付属病院検査部を定年退職
- 明石 高明 先生 大阪医科大学中央検査・病院病理部

===== JACLaP WIRE =====

## 【お知らせ-2】

第13回日本臨床検査専門医会春季大会について（富永真琴大会長）  
以下のように開催されます。会員の皆様の多数のご参加を御願いたします。

大会長：富永真琴（山形大学医学部臨床検査医学）

場所：山形テルサ 〒990-0828 山形市双葉町 1-2-3 TEL:023-646-6677

日時：平成15年4月18日（金）午後5:00～午後8:00

19日（土）午前9:00～午後5:00

・平成15年4月18日（金）

### I. 特別講演 <午後5:00～午後6:00>

「ポストゲノム時代の遺伝子検査の展望」

司会：富永真琴（山形大学医学部臨床検査医学）

演者：村松正明（ヒュービットジェノミクス社研究所）

### II. 懇親会 <午後6:00～午後8:00>

・平成15年4月19日

### III. フォーラム <午前9:00～午前10:50>

「知っておきたい検査」

司会：森三樹雄（獨協医科大学越谷病院臨床検査部）

1. H-FABP 高木康（昭和大学医学部臨床病理学）
2. KL-6 神辺眞之（広島大学医学部臨床検査医学）
3. グリコアルブミン 武井泉（慶応大学医学部中央検査部）
4. MMP-3 山田俊幸（順天堂大学医学部臨床病理学）
5. インフルエンザ A/B 抗原検査  
船渡忠男（東北大学大学院医学研究科分子診断学）
6. PWV/ABI 丸山征郎（鹿児島大学医学部臨床検査医学）

### IV. Reversed CPC <午前11:00～午前12:00>

「左脛骨外顆骨折の手術後に急変した67歳の女性」

司会：下正宗（東葛病院臨床検査科）

ディスカッサー：松尾収二（天理よろづ相談所病院臨床病理部）

諏訪部章（岩手医科大学臨床検査医学）

矢内充（日本大学医学部臨床検査医学）

### V. シンポジウム <午後1:00～午後5:00>

「病院マネジメント改革と臨床検査医」

司会： 中原一彦（東京大学医学部臨床検査医学）

高橋伯夫（関西医科大学臨床検査医学）

1. 感染症管理における臨床検査医の役割  
一山智（京都大学医学部臨床検査医学）
2. 検査部マネジメントの改革

前川真人（浜松医科大学臨床検査医学）

3. プランチラボの意識改革

木村聡（昭和大学横浜市北部病院臨床検査科）

4. 中央検査部における臨床検査医とは

三家登喜夫（和歌山県立医科大学臨床検査医学）

5. 関連法規の整備の必要な検体検査業務

臨床検査医のしなければならないこと

佐守友博（日本医学臨床検査研究所）

6. 臨床検査専門医は臨床医として生き残れるか

一般内科医とも健診医とも異なる固有の診療を目指して

西堀眞弘（東京医科歯科大学附属病院検査科）

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-3】

平成 15 年度 第二回 常任・全国幹事会 開催のお知らせ

会場：山形テルサ 〒990-0828 山形市双葉町 1-2-3 TEL:023-646-6677

日時：平成 15 年 4 月 19 日（土）12:00～13:00

===== JACLaP WIRE =====

【お知らせ-4】

公益信託臨床病理学研究振興基金は、2003年2月20日付で名称を「公益信託臨床検査医学研究振興基金」に変更することが厚生労働大臣より許可されました。なお、事業は従来どおりとし、平成15年度から「藤田光一郎賞」を新しく追加いたします。（河合 忠）

===== JACLaP WIRE =====

【最新トピックス-1】危険な運転士

2003年2月26日にJR山陽新幹線「ひかり126号」で運転士(33歳)が居眠りをして、停車すべき駅を通過するミスをおかした。この運転士は体重が100キロを超え、高血圧気味で、運転前夜、生ビール2杯、焼酎の水割り3杯、チューハイ2杯を飲んでいて、居眠り運転の前には約10時間の睡眠をとっていた。数年前から睡眠中に目覚め、一晩に数回トイレに行くこともあり、最近は熟睡したことがほとんどないと回答している。大阪市の呼吸器内科専門医がこの運転士を調べたところ、「睡眠時に1時間40回以上呼吸が止まる」、「通常97%程度の血中酸素濃度が75%以下まで下がる」の2点を満たし、「肥満に起因する重度の睡眠時無呼吸症候群(SAS)」と診断された。SASなどの睡眠障害に絡んで起きたとされる事故には、1979年の米スリーマイル島原発事故、1986年の米スペースシャトル「チャレンジャー」爆発事故、1986年のソ連チェルノブイリ原発事故、1989年のアラスカ沖タンカー座礁、1995年の客船「スター・プリンセス号」の座礁などがある。

日本には統計上、約200万人のSAS患者がいることになる。SASの症状はいびきと昼間

の眠気であるが、酸素不足のため循環機能に負担をかけ、不整脈、狭心症、急性心筋梗塞、脳梗塞、高血圧、心不全、糖尿病といった病気をこす。

SAS 患者の治療は経鼻的持続陽圧呼吸療法(CPAP)で、睡眠時にプラスチックのマスクを装着し送風装置で、空気を送り込むことによって閉塞した上気道を広げるのでいびきや無呼吸を起こさなくなる。タクシーやバスの運転士、パイロットなどの職業では定期健診の他に、厳重な医学的な適性検査が必要である。

(獨協医大越谷病院臨床検査部教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

#### 【最新トピックス-2】国際赤十字 (ICRC)による「行方不明者」の国際会議

2003年2月19日~21日の3日間、スイスのジュネーブ国際会議場で国際赤十字(ICRC International Committee of the Red Cross)が主催する「行方不明者」に関する国際会議に筆者は WASPaLM(世界病理学・臨床検査医学会連合)の会長として出席した。世界90か国から政府、国際人権会議およびNGO関係者が400人出席した。国際赤十字は1863年に人道主義を掲げるスイスのジュネーブで発足し、本部が設置されている。今回のテーマの「行方不明者」とは軍事衝突あるいは内戦などで誘拐されたり、行方不明になった人のことを意味し、行方不明者が出ると家族は各種のトラウマがおこるので、心理的、経済的、社会的な支援が必要となる。

アフガニスタン、アンゴラ、アルメニア・アゼルバイジャン、ボスニア・ヘルツゴビナ、コロンビア、コンゴ、東チモール、エリトリア・エチオピア、湾岸戦争、イラン、メキシコ、ペルー、ロシア、ルワンダ、スリランカ、西サハラなどで、過去に数十人から数万人の規模で行方不明者が報告されている。各国から行方不明者についての現状報告と行方不明者の家族についての対応、防止法、国際法、専門家の協力、情服の管理と防御、死亡者の情報などについて報告された。WASPALMとしては行方不明者が生存または死体として発見された場合に、臨床検査医学や法医学の分野で、DNA分析法を駆使して同定により協力できる。詳細についてはICRCのホームページ [www.icrc.org](http://www.icrc.org) をご覧ください。

(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 教授 森 三樹雄)

===== JACLaP WIRE =====

#### 【MTJ (The Medical & Test Journal) 3月1日号から】

##### 特定機能病院、DPC導入に対応急務

特定機能病院等の急性期入院医療の包括払い制度(診断群分類: DPC - Diagnosis Procedure Combination)が2月26日、中央社会保険医療協議会で諮問・答申された。個々の大学病院の対応は、現時点でバラツキがある。そんななかで、国立大学病院のなかで4月実施を選択した鹿児島大学医学部附属病院(愛甲孝院長)は、4月からの実施に向け2月10日~3月14日の約1か月間、DPC院内試行を開始した。同院では全診療科の病棟医

長らを中心に、現行の出来高払い制と平行して DPC を試行、保険収入の格差を検証する。一方、私立大学病院のなかでも昭和大学病院（五味邦英院長）は、DPC の 4 月実施を予定しているのに対し、慶応義塾大学病院（村井勝院長）は、6 月実施を院内決定している。導入時期にバラツキはあるが、特定機能病院の診療報酬体系は一步ずつ着実に包括払い制度に突入していくことになる。

#### 佐守氏 日衛協が目指す検体検査の法整備の必要性を指摘

大阪府臨床衛生検査技師会（朝山均会長）がこのほど開いたフォーラムで佐守友博氏（日本医学臨床検査研究所統括所長）は、日本衛生検査所協会が目指す検体検査に関する法整備の必要性について指摘した。また、同研修会では、付加価値の高い検査報告書の具体的事例が報告され、医療現場で活用できる実践的情報が提供された。佐守氏は、日衛協の臨床検査基本法検討委員会がまとめた現行法規に対する改正要望事項を紹介した。それによると 1)検査を行う全ての施設を同じ法律で規制してほしい 2)臨床検査技師の役割および義務を明確にしてほしい 3)衛生検査所の品質に関する情報の公開を制度化してほしい 4)登録制度を許可制度とし精度保証を強化してほしい など。

#### チーム医療に検査技師が参加し医療の質的向上に寄与

第 13 回日本臨床化学会近畿支部総会（熊谷俊一総会長・神戸大学教授）がこのほど、神戸市内で開かれた。シンポジウム「チーム医療と臨床検査」では、治験業務、栄養サポートチーム、感染制御、輸血事故防止、糖尿病の患者指導などにおいて、チーム医療の一環として検査技師が加わることで、より質の高い医療に向けた取り組みが紹介された。

岡山大学病院中央検査部は、平成 12 年から治験センターに臨床検査技師が治験コーディネータとして兼務、現在、2 人の臨床検査技師が治験センターの業務を行い、検査部全体で治験業務をサポートしている。天理よろづ相談所病院は、栄養サポートチーム（NST）に生化学を担当する臨床検査技師が参加、IVH 患者の栄養、合併症を生化学的に管理している。

#### 日本臨床薬理学会 2004 年度から CRC の認定試験開始

臨床試験コーディネーター（CRC）の認定制度を検討していた日本臨床薬理学会（理事長＝中野重行・大分医科大教授）は、昨年 12 月 10 日の評議員会で「日本臨床薬理学会認定 CRC 制度規則」の最終案を承認、施行に入ったが、その運用を定める「細則」を 28 日までにとまとめ、同学会雑誌に規則を含めてその全容を発表した。CRC の養成については、1997 年の新 GCP 施行以後、合せて 5 つの機関で行われてきたが、CRC 認定は今回の制度に一本化される。認定 CRC 認定試験は来年、2004 年度から開始されるが、それまでの間の「過渡的措置」として、学会が定めた条件をクリ

アした人については先行して、申請によって認定CRCとして認めることも決まった。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 3月11日号から】

#### 昭和大学病院、DPCの4月実施を最終決定

中央社会保険医療協議会が2月26日、坂口厚労相から諮問を受けていた特定機能病院等の入院医療包括評価に関して答申したことをうけ、昭和大学病院(885床、医療機関別係数1.1030(調整係数1.0768)、五味邦英院長)は、4月から入院患者の包括医療(DPC)を導入することを最終決定した。昭和大学病院は昨年11月に、DPC準備委員会を発足させ、診断群分類の運用について協議を進めてきた。4月以降は「DPC運用委員会(仮称)」に改称し、DPC導入による診療内容の質的保証、今回の調整係数の妥当性などの評価機関として継続的に活動していく計画だ。

#### 自民党臨床検査技師制度改革議員連盟が設立総会

自由民主党臨床検査技師制度改革議員連盟の設立総会が3月5日、都内で開かれ、橋本龍太郎元厚相(衆院議員)が会長に選出された。同総会では、厚生労働省で行われている臨床検査技師、衛生検査技師の在り方等検討会の検討結果を踏まえ、成案化し、臨衛技師法改革法案として今国会に議員提案を目指すことを確認した。

橋本会長は「検査のもつ重み、その必要性が高まり、検査を確立していかないといけない場面が何度かあった。0157の集団感染のときにも検査技師には貢献してもらったが、医療の中核だけがメディアに取り上げられ、検査が(国民の)目にふれることはなかった」とし、「日の当たらない場所に、多くの議員に目をむけてもらえることはさいわいだ」と述べ、99人による自民党議員連の発足の意義を語った。

#### 公取委の勧告問題 エスアールエルなど3社が「不応諾」

公正取引委員会から独禁法違反で勧告を受けていた社団法人半田市医師会、エスアールエル、ビー・エム・エル、三菱化学ピーシーエルなど10事業体の諾否の回答が出揃った。公取委によると、今回の勧告に対し「不応諾」と回答したのは、エスアールエル、SBS、生命情報分析センターの3社。「応諾」としたのは、ビー・エム・エル、三菱化学ピーシーエル、大塚製薬、塩野義製薬、ファルコバイオシステムズ、半田市医師会、大阪血清微生物研究所の7事業体だった。

【MTJ (The Medical & Test Journal) 3月21日号から】

#### 共通外部精度評価事業が04年度からスタートへ

日本国内の外部精度管理調査が、2004 年度から一本化される方向で検討が進んでいる。3月7日、日医会館で開かれた第 32 回臨床検査精度管理改善検討会では、日医臨床検査精度管理事業を 04 年度から新たな方式で事業展開する方針が明らかになった。西島英利・日医常任理事は、本紙の取材に対し「新たな外部精度管理調査事業は、日医をはじめ日本臨床検査医学会、日本臨床衛生検査技師会、日本衛生検査所協会の 4 者が、日本における共通外部精度評価事業を構築していくという考えのもとに協議を進めてきたものだ」とし、細部のつめが終わり次第、全容を公表していく考えを示した。日臨技、日衛協はともに協議に参加しているが、両会から外部精度管理調査の統合化について公式見解はまだ示されていない。

#### 輸入真菌症診断ハンドブック作成

輸入真菌症診断ハンドブックがこのほど、厚生労働科学研究費補助事業（新興・再興感染症研究事業）として輸入真菌症等真菌症の診断・治療法の開発と発生動向調査に関する研究班（主任研究者 = 上原至雅氏・国立感染症研究所生物活性物質部）によって作成された。国内の輸入真菌症の症例数は、総数でも 80 例あまりにすぎない。しかし、報告の大部分はこの 10 年に集中している。海外からの来訪者、日本からの渡航者がふえるなか、コクシジオイデス症を中心とした輸入真菌症の症例数が急速な増加を続けている。実際、それらしい患者に遭遇した場合、医療現場で、どのように対応すべきかが簡約に説明されている。

=====

JACLaP WIRE, No.57 (2003 年 4 月 2 日発行)

発行：日本臨床検査専門医会 [ 情報・出版委員会 ]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

記事・購読（配信）・広告等に関するお問い合わせ先：

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学医学部臨床検査部医局内

e-mail：jaclap\_wire@yahoo.co.jp TEL：045-787-2721 FAX：045-786-0392

日本臨床検査専門医会ホームページ：http://www.jaclap.org/

JACLaP WIRE バックナンバー：http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP

\*\*\*\*\*

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

\*\*\*\*\*

メーリングリスト配信先の変更には

1.氏名、2.現行登録アドレスと 3.変更希望メールアドレスを添えて

jaclap\_wire@yahoo.co.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。

\*\*\*\*\*